令和7年3月3日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立第十中学校
校長 野口 芳一

令和6年度 目黒区立第十中学校 学校評価報告書【完成版】

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第1回実施日時 令和6年9月4日(水) 午前10時00分～午後11時00分

- ・本校の教育課程
- ・本校の学校運営方針
- ・本校教育活動の現状と課題

(2) 第2回実施日時 令和7年2月17日(火)～2月28日(金) 書面開催

- ・本校教育活動の学校評価について
- ・今年度のまとめ及び次年度の課題について

2 参加者

島田 功一郎評議員・吉澤 明美評議員・岸人 弘久評議員・横澤 香子評議員・勝部 敦史評議員
野口 芳一校長・関根 公子副校長

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	四者※による学校評価アンケートの結果分析 ◎(成果)、●(課題)、 ⊙(成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見															
学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて <table border="1" data-bbox="92 1429 384 1599"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>88.9</td> <td>1.7</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>93.3</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>92.3</td> <td>10.5</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>4.5</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	88.9	1.7	生徒	93.3	1.5	地域	92.3	10.5	教職員	100	4.5	◎学校生活の印象について、保護者、地域は88.9%、92.3%と肯定的評価が高く、生徒自身も充実していると93.3%が回答している。学校の状況は、内外的に良好だと捉えられているといえる。 ◎教職員の対応については、保護者、生徒、地域が「誠実に子どもたちのことを考えて接している」という肯定的な評価が、92.3%~93.4%となり、生徒、保護者と教職員との関係性が築けていることがわかる。 ●昨年度より、学校評価を電子データで実施している。保護者の回答率が極端に下がり、昨年度との比較において、分析が難しい。	・令和7年度は、生徒の主体的な活動を更に充実させて、各教育活動を多面的に見直し、改良していけるように、教職員が生徒のために、一丸となって協働できる学校を創り上げていく。 ・教職員は、生徒一人ひとりの存在を大切に考え、社会に通用する知識やマナーを身につけさせながら、生徒が、求めて学び、自らを鍛え、そして、考えて行動出来る人へと成長させることのできる組織を形成していく。	・学校生活の印象が肯定的に捉えられており、かつ、生徒、保護者と教職員の関係性が築けているのはよいことです。教育活動全体にもよい影響を与えていると思います ・年代的に、学校訪問は授業参観日、展示発表会ですが、評価項目としては、大変良いと感じています。
対象	結果	差																
保護者	88.9	1.7																
生徒	93.3	1.5																
地域	92.3	10.5																
教職員	100	4.5																

<p>I 教育目標について</p> <p>・教育目標、時程、教育内容全体について</p> <table border="1" data-bbox="92 297 395 465"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>81.8</td> <td>14.9</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>81.3</td> <td>▲3.6</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>92.3</td> <td>19.6</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>4.5</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	81.8	14.9	生徒	81.3	▲3.6	地域	92.3	19.6	教職員	100	4.5	<p>◎学校だよりや学校行事、また校長の講話等においても、教育目標に触れているため、保護者、地域、教員は、昨年度よりも肯定的な評価が15~19%上昇し、本校の生徒や地域の実態に合っていると考えられる。一方、生徒はやや理解度が減っている。</p> <p>◎教育活動全体については、保護者、生徒、地域においては、85%前後の肯定的評価が出ている。</p>	<p>・校長からの発信を受け、教員が教育目標を考えた教育活動につなげている。生徒の主体的活動を充実させ、さらに教育活動を充実させていく。</p> <p>・更に、保護者や地域に教育活動の状況を知っていただく機会を充実させていく。</p>	<p>・教育目標は、常に触れることで意識に定着していきます。そういう意味では、発信が適切になされているのだと思います。</p> <p>・目標等妥当と思います。（年齢的に差があり、自身にも現在の目標等参考になります。）</p>
対象	結果	差																
保護者	81.8	14.9																
生徒	81.3	▲3.6																
地域	92.3	19.6																
教職員	100	4.5																
<p>II 心の教育について</p> <p>・道徳科(道徳)の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について</p> <table border="1" data-bbox="92 969 395 1104"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>83.3</td> <td>23.6</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>97.4</td> <td>▲1.1</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>90.5</td> <td>▲9.5</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	83.3	23.6	生徒	97.4	▲1.1	教職員	90.5	▲9.5	<p>◎保護者、生徒、教員において、肯定的評価が83.3%、97.4%、90%と全体的に高い結果となった。特に保護者の評価が昨年よりも23.6%も向上しており、全教育活動を通して、いじめを許さない、命の大切さや思いやりをもって生活する指導が理解され、評価されたといえる。</p> <p>●教員は、昨年よりも10%近く、生徒の道徳的実践力の向上に関して、肯定的な評価が減少しており、日常生活の生徒との関わりの中で、もっと生徒の心を豊かにさせる活動や指導の必要性があると感じている。</p>	<p>・令和7年度も生徒に対して、豊かな心の教育を実践していき、保護者にもその変容を配信していく。</p> <p>・道徳授業地区公開講座やセーフティ教室、人権週間のみならず、学校生活の指導や道徳の授業の展開方法を若手教員も学べるように、校内研修等を通して、心の教育に対する研修を行っていく。</p>	<p>・道徳の授業を充実させる一方で、授業外の場面においても心の教育ができるよう、教員のスキル向上を図るとよいと思います。</p> <p>・我々の時代と比べ、道徳の授業により学校生活等に良い結果となっていると思います。</p> <p>・保護者と生徒の受けとめ方に差があります。生徒は親に学校でのことを、それほど語らないものだからでしょうか。教職員と生徒が大体同じように事象を把握していることに安心感があります。先生方のご苦勞がしのべれます。</p>			
対象	結果	差																
保護者	83.3	23.6																
生徒	97.4	▲1.1																
教職員	90.5	▲9.5																

<p>Ⅲ 学習指導等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、主体的に学習に取り組む態度等の取り組みについて ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実について <table border="1" data-bbox="92 633 384 768"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>76.8</td> <td>14.4</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>81.5</td> <td>▲8.8</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.2</td> <td>▲4.8</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	76.8	14.4	生徒	81.5	▲8.8	教職員	95.2	▲4.8	<p>◎保護者の学校の学習指導について、76.5%が肯定的な評価をし、昨年よりも14.4%上昇している。公開授業参観や生徒からの授業の取り組みについての話から、教員がデジタル教科書や情報端末の活用を図ってきたことや、授業改善を実践してきたことが、評価されて数字に表れている。</p> <p>●教員のICT活用の評価や生徒の学習端末の活用の評価が92.6~95.2%と非常に高いが、生徒の「分かりやすく興味をもてる授業か」の肯定的評価が、全教科において、81.5%と8.8%減少している。教員の授業改善に取り組んできた95.2%の評価に対して、課題が表れている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和7年度も、今まで進めてきたICTの活用、学習用情報端末の活用をしながら、生徒がこの課題を把握し、その解決に導けるよう、個の探求的活動の支援を行っていく。 ・令和7年度も授業改善を充実させ、生徒にとって「分かりやすく、興味をもてる授業づくり」を推進する。 ・学校の教育活動の内容や成果を保護者に知っていただく機会を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業に対する生徒の評価と教員の評価の差がなぜ生じているのか、分析するとよいと思います。 ・少人数指導等で良い結果が上がっていると思う。反面、ICT活用端末の活用で調べる力に危惧を感じる事が一方であります。 ・タブレットの活用が学習内容の理解の向上にどれくらい効果をもつのか、また、脳科学の視点から若い脳への影響はどうか、学校側が勉強する必要もあるのではないのでしょうか。行政には見えていないポイントもあるかと考えます。
対象	結果	差													
保護者	76.8	14.4													
生徒	81.5	▲8.8													
教職員	95.2	▲4.8													
<p>Ⅳ 体育・健康教育について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上、健康の促進に向けた取組について <table border="1" data-bbox="92 1305 384 1440"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>82.8</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>84.1</td> <td>▲4.4</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.2</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	82.8	20	生徒	84.1	▲4.4	教職員	95.2	4.3	<p>◎生徒自身が「学校で一生懸命に運動したり、健康に気を付けていたりして生活していますか」の肯定的評価が84.1%で、ほとんどの生徒が健康や運動を意識して生活していることが分かる。保護者は運動会や区の体育大会、部活動を通して、学校の健康促進について肯定的な見方が、20%も肯定的評価が向上している。</p> <p>●保護者の評価は増加したが、生徒は、多少だが昨年度より下がっているため、来年度はその改善を図っていく必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員や給食委員による、掲示活動やたよりの配信、生徒会朝礼等での発表を通して、生徒が主体的に、健康維持や促進、体力の向上について、留意し自己コントロールできる力を付けさせていく。 ・令和7年度は、一年を通して、めぐろこころカラダシートを活用し、健康的な生活への意識を深め、体力の向上を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や健康維持の促進が、適切になされていると思います。 ・運動会だけですが、年齢的な体力、健康は感じます。
対象	結果	差													
保護者	82.8	20													
生徒	84.1	▲4.4													
教職員	95.2	4.3													
<p>Ⅴ 特別活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事の充実、異学年交流活動、部活動の活性化などについて <table border="1" data-bbox="92 2022 384 2067"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>91.3</td> <td>18.2</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>85.9</td> <td>▲5.4</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.2</td> <td>▲9.3</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	91.3	18.2	生徒	85.9	▲5.4	教職員	95.2	▲9.3	<p>◎「学校行事や生徒会活動、部活動で、充実感を得られている」生徒は、91.3%と高評価を維持し、保護者も学校の取組を昨年度より18.2%増の85.9%が肯定的な評価をし</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動会や合唱コンクール、等、学校行事では、実行委員会等において、生徒たちが主体的に取り組めるように工夫されている。部活動の 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に行動する力が育成されており、よいことだと思います。ぜひ継続してその力を伸ばしていただきたいです。
対象	結果	差													
保護者	91.3	18.2													
生徒	85.9	▲5.4													
教職員	95.2	▲9.3													

<table border="1"> <tr><td>保護者</td><td>85.9</td><td>18.2</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>91.0</td><td>1.3</td></tr> <tr><td>地域</td><td>84.6</td><td>▲6.3</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>90.5</td><td>4.1</td></tr> </table>	保護者	85.9	18.2	生徒	91.0	1.3	地域	84.6	▲6.3	教職員	90.5	4.1		<p>ている。これは生徒自身及び保護者からも、生徒の自主的活動が図られていることを評価されているのが分かる。</p> <p>●地域の評価は、6.3%減少しているが、「働き方改革」を推進している為、部活動の活動日や活動時間に影響が少なからずあったといえる。</p>	<p>加入率も、区内で最も高い。令和7年度も生徒が清掃ボランティア等の活躍出来る機会を増やしていく。</p> <p>・部活動については生徒、保護者の理解を得ながら、地域移行や働き方改革を進める。</p>	<p>・特別活動については、通常見る事は少ないですが、大会結果報告、発表会からの感じでは、頑張っている感じがあります。</p>		
保護者	85.9	18.2																
生徒	91.0	1.3																
地域	84.6	▲6.3																
教職員	90.5	4.1																
<p>VI 学校生活全般について</p> <p><生活指導></p> <p>・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて</p>	<p>◎保護者や地域からの生徒の学校生活の印象は 85.9%、84.6%と高い評価となっている。これは、校内外の生徒の様子から、そのように捉えられたと推察する。</p> <p>○生徒は「あなたは学校できまりやマナーを守り、落ち着いて勉強していますか」の項目で91%が肯定的評価であった。ほとんどの生徒が、生徒会を中心に改正した学校のルールを守っていかうとしていることが分かる。</p>	<p>・令和7年度は、更に生活指導部を中心に、授業規律や規範意識の向上に、組織的に対応していく。</p> <p>・令和5年度より実施している生徒会主体の校則改正を受け、令和7年度も生徒が自ら生活のルールやマナーについて考えを深め、正しく判断して行動できるように促していく。</p>	<p>・全般的には、生徒のルールを守る意識が高くとてもよいと思います。</p> <p>一部の規範意識の低い生徒への対応は根気がいると思いますが、学校全体で組織的に意識の向上に当たる必要があると思います。</p>															
<table border="1"> <thead> <tr><th>対象</th><th>結果</th><th>差</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>保護者</td><td>85.9</td><td>9.3</td></tr> <tr><td>生徒</td><td>91.0</td><td>▲3.3</td></tr> <tr><td>地域</td><td>84.6</td><td>21</td></tr> <tr><td>教職員</td><td>66.7</td><td>▲19.7</td></tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	85.9	9.3	生徒	91.0	▲3.3	地域	84.6	21	教職員	66.7	▲19.7	<p>●教員においては、子どもたちの落ち着いた生活について、20%近く減少している。これは、各学年ほとんどの生徒が落ち着いて生活している中で、中には規範意識の低い生徒が、授業に集中できない現状があることを、表している。</p>	<p>・問題行動、いじめや不登校問題、特別支援については、常に情報の共有を行い、生活指導部、教育相談部を核として、組織的に保護者や関係諸機関と連携し、未然防止・早期発見・早期解決に努める。</p> <p>・令和7年度も総合意識調査「i-check」を、年2回実施し、学校全体で共有し、生徒理解を深める。</p>	<p>・通常、接することがなく、意見はありません。</p> <p>・規律を守り、周囲を視野に入れて生活することが、小学生並みに出来ない中学生が増えていると感じます。学校で指導できることには限界もあり、地域の大人の協力が不可欠と思います。コンビニ等の商店と連携して子どもたちを育成できたらと考えますが難しいでしょうか。</p>
対象	結果	差																
保護者	85.9	9.3																
生徒	91.0	▲3.3																
地域	84.6	21																
教職員	66.7	▲19.7																
			<p>保護者と地域の情報交換ができれば少しは保護者に伝わるかもしれません。</p>															

<p><防災教育・安全指導></p> <p>・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて</p> <table border="1" data-bbox="92 392 395 526"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>81.8</td> <td>12.5</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>93.3</td> <td>▲2.5</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	81.8	12.5	生徒	93.3	▲2.5	教職員	100	0	<p>◎災害や事故に関する安全教育に関しての生徒の肯定的評価は93.3%～96.4%と非常に高い。</p> <p>不審者の侵入や火事、地震、等の場面を想定した実践的な避難訓練を実施している。自転車安全教室や安全に関する授業も毎月実施している。</p> <p>また情報端末の活用が進んでいることから、生徒の情報モラル教育も必要となっている。</p>	<p>・令和7年度も、年間を通じて計画的に安全教育や情報モラル教育、避難訓練を実施していく。</p> <p>・学習用情報端末の使用目的や場面を明確にしたり、SNSの使用マナー等を、定期的に学ぶ機会を作る。</p>	<p>・避難訓練等により、平時における備えが適切になされていると思います。</p> <p>・残念ながら、防災等の指導現場に接する事無く、意見無しです。</p>
対象	結果	差													
保護者	81.8	12.5													
生徒	93.3	▲2.5													
教職員	100	0													
<p><小・中連携></p> <p>・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について</p> <table border="1" data-bbox="92 1014 395 1120"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>73.2</td> <td>4.2</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.2</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	73.2	4.2	教職員	95.2	4.3	<p>◎年3回の十中学区の3つの小学校との連携も、計画的に実施することができている。</p> <p>6年生と中学2年生で実施する、いじめ問題を考えるめぐろ子ども会議は、今年度インフルエンザの罹患により、実施できなかったが、各々の学校で話し合い、行動宣言を作成することができた。</p> <p>また、十中校区での里帰り挨拶運動（小学校で中学生が挨拶運動を実施）を年2回実施、中学校の合唱コンクールのリハーサルを小学校5年生が見学、ビデオを生徒会が作成し校区の小学校で公開、その他年3回の教員の連携等、着実に実施することができた。</p>	<p>・令和7年度の小中連携のテーマを「自ら学び進める児童生徒の育成」として、計画的に連携を進める。</p> <p>・特に来年度は、学校生活における共通のルールや授業規律等生活指導の共有を推進していく。</p>	<p>・児童・生徒間、教員間とも、小・中で密に連携が図られていると思います。</p> <p>・いじめ問題等中学校区の小学校との会議にも参加していますので、良いと思います。</p>			
対象	結果	差													
保護者	73.2	4.2													
教職員	95.2	4.3													
<p>VII 情報の発信、家庭・地域との連携について</p> <p>・学校の情報発信や地域人材の活用、保護者の協力状況、PTA活動の充実などについて</p> <table border="1" data-bbox="92 1877 395 2011"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>88.4</td> <td>3.2</td> </tr> <tr> <td>地域</td> <td>84.6</td> <td>2.8</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>95.2</td> <td>4.3</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	保護者	88.4	3.2	地域	84.6	2.8	教職員	95.2	4.3	<p>◎保護者、地域の肯定的評価が88.4%、84.6%となり、それぞれ3.2%、2.8%向上した。</p> <p>環境に配慮して、ペーパーレス化を継続し、学校や区からのたよりや各種のお知らせを Home & School や L-gate で配信して、着実に保護者に届くようになった。地域には紙でお知らせや学校だよりを配布し、情報発信をして</p>	<p>・令和7年度も Home & School の活用を推進していく。</p> <p>・ホームページの整備を組織的に行えるように、記録は適切に編集、保存し、学校の教育活動の情報発信力を高める。</p>	<p>・電子媒体、紙媒体の双方のバランスがよく、情報の発信がなされていると思います。</p> <p>・家庭との連携は分かりませんが、地域との情報の配信等は良好と感じています。</p>
対象	結果	差													
保護者	88.4	3.2													
地域	84.6	2.8													
教職員	95.2	4.3													

	<p>いる。これらのことが評価されたものと考えられる。</p> <p>◎生徒への配信は、一人1台端末のドライブを活用している。</p> <p>学年やクラスで、端末を通してたよりやお知らせを読む時間を一斉にとる工夫を後期からしているが、正確に理解して読んでいるかの確認は難しい。</p>	<p>・朝読書の時間などで、一斉にたよりやお知らせをよむ時間を設け、メッセージが生徒に届くようにしている。</p>							
<p>Ⅷ 教員の人材育成について</p> <p>・日常の職務における専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について</p> <table border="1" data-bbox="92 967 384 1037"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>結果</th> <th>差</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>90.5</td> <td>▲0.4</td> </tr> </tbody> </table>	対象	結果	差	教職員	90.5	▲0.4	<p>◎教員は、年10回の区のeラーニング研修を行い、中には区や都の専門的な研修にも参加している者もいる。また、情報端末やICTを意図的に活用している教員は、95.2%、端末を学習に生かしている生徒92.6%、という成果を出しており、教員のICTの活用能力は向上している。</p> <p>また、サービス研修を年3回実施し、普段からサービス事故を起こさないよう教職員同士の声掛けを行い、地方公務員としての自覚を高めている。</p> <p>◎教職員は、OJTの視点で、授業改善や生徒指導等について、助言し合い、学び合う協働体制ができている。</p>	<p>・令和7年度は、校内研修をより充実させ、授業力向上を目的とした研修を中心に、より組織的な人材育成を行っていく。</p> <p>・教職員の働きやすい職場を作りながら、心身ともに健全な教職員をめざした、サービス研修を実施する。</p> <p>・令和6年度も協働体制を維持し、組織的に教育活動を進めていく。</p>	<p>・校内・校外における研修等により、研鑽に励んでいる様子がうかがえます。</p> <p>・意見不明（実際）ありません。</p>
対象	結果	差							
教職員	90.5	▲0.4							

Ⅸ 教員の働き方改革について

- ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について

対象	結果	差
教職員	90.5	8.7

◎朝の教職員の打ち合わせ資料をデータ化、家庭からの連絡手段にHome&Schoolの活用を推進し、会議用資料や通信をペーパーレス化する等、業務の効率化を図ることができている。

特に、定期考査の際、教員は自動採点システムを更に活用し、採点が時短になり、余剰の時間を生徒との関わる時間に当てることが出来た。また、部活動指導員活用の推進、業務改善推進校として取組を進めてきた。教員の長時間の在校時間への意識を高めている。

●業務改善を進めても、業務量が軽減されないため、スクールサポートスタッフや地域の人材の活用や業務のやり方の工夫や、精選を行って育必要がある。

・令和6年度、業務改善モデル校として、実践してきたことをさらに見直し、令和7年度も、改良すべき点は改良し、生み出した時間が、より内容の充実した教育活動に繋がるよう、業務改善を進める。

・部活動の外部人材活用を進め、地域への人材への移行にも前向きに取り組み、教員の負担感を軽減させていく。

・教員の業務改善や業務量の縮減は、まだ途上にあると思いますが、少しずつでも負担軽減の方向に向かってほしいと思います。

・実際に接していないので、意見無し。